

持続可能な森林経営研究会

<http://sfmw.net/>

森林施業の問題点等に関するアンケート調査

課題1 森林情報の把握、内容、取り扱いについての問題点と対応

小規模所有者を含めて森林の境界は不明なところが多い、林業が経営的に成り立たないことや、知っているが高齢化により山林を歩けなく、後継者もいないことが原因でもある。

又、個人情報保護上、他人の山林情報は開示できなく慎重に取り扱いを求めているのも原因である。

最近各地でGIS導入が広がりを見せているが、都道府県によりデータの開示や正確さもまちまちで今後、所有者、都道府県、市町村、各森林組合とも連携をとり、正確を高めて使いやすいGISに活用できる体制の構築が必要である。

課題2 目標とされている森林施業のあり方に関する問題点と対応

最近経済情勢の悪化から丸太の材価が大幅に下がり採算が取れない山林が大部分である。人工林が伐採してもあわないために長伐期施業へシフトしつつあります、長伐期は路網密度を高め、間伐材や択伐として材価が上がった際に搬出し、注文材として対応するメリットがあります。

複層林について環境林としては優れていますが、歴史的に実績がある地域では、先祖から引き継がれた施業を厳守し努力を続けているが端的に一部分のみを見て同施業のマネは避けるべきである。

甚大な気象害（風、雪外など）を受ける場合が多い、複層林は100年以上前から施業した山林が多く徹底した山林管理を行っている、その違いを認識すべきと思われます。

以前ある山林で70年生のヒノキの強度間伐を実施して林床に植栽を試みたが、ほとんどが風の被害を受け最終的には皆伐を実施した山林があった。長伐期施業は別にして複層林施業は出来るだけ避けた方が無難であると思われます。

課題3 森林計画の体系、内容等に関する問題点と対応

3区分の仕方は現状の山林に合わせた見直しをして調整する必要がある、経済情勢の悪化により「資源の循環林」が減少し間伐作業が遅れている山林が増加しているために、「森林と人との共生林」の天然林化が進む傾向にある。

公益的機能の役割は適正な管理は必要と認めているものの、目に見えないこともあり台風被害が発生時に認識することが多い、国土保全の必要性から森林計画に基づいた計画倒れにならないように森林整備の指導や助成等をもっと行ってほしい。

課題4 森林計画の実行、森林施業の実行に関する問題点と対応

持続可能な森林経営研究会

<http://sfmw.net/>

課題5 その他（自由にご意見を）

- 1、新植を施業する場合には周囲に鹿防護ネットが必要であり、ネット管理は4～5年必要で、最低月2回は巡視して壊れていないか確認する作業が必要です。
強風でネットが傾く、松などの枯れ枝が落下してネットを破損、小谷では水が増水しネットを壊す、猪がネットをもぐりそこから鹿が侵入し食害被害が発生します。
造林費用としてネット作業を予算として組み入れが必要です。
- 2、低コスト造林施業を実施するには植え付け本数の削減も考えられますが、都道府県の保安林の施業要件の中で、植え付け本数が決められており、その本数以上でなければ認められません。
例えば三重県（水源涵養保安林）の場合にはヒノキ2200本/ha、スギ2100本/ha植え付け本数になっているためにこれ以下の本数の削減は不可能です、もう少し下げて1500本/haまで認めるなどの施業要件の変更を望みます。

以上